

9月を迎えて

(同窓会会誌原稿から)



海運や物流産業の様相は、常に国際政治経済社会の縮図、小職も昨年4月から海事新聞を連日隈なく読むようになりました。社会経済は、気候変動と環境変化、国際社会が織りなす紛争、物材の大量消費国の動向、あるいは金利政策などの影響を受けて大きく変動しています。2020年の到来以来、COVID-19、新型コロナウイルスによる感染症の感染拡大との闘いが続いており、2022年の8月時点で第7波。ニューノーマル、「新しい生活様式」という表現が、新型コロナウイルスと対峙する人類の社会様式として普及しています。しかしながら、マスクの着用などエアロゾル感染のリスクを減らす行動を除けば、スマホの普及、オンデマンドのプログラム、交通系含む電子決済あるいはネット決済などコンビニエンスをひたすら求めて進んでいた社会のひとつの着地点に至ったといえます。海外の有名大学の講義も、はるか前から誰でもインターネットで垣間見ることができており、日々の授業や学修の参考になっていました。便利になった反面、情報を適切に利活用できて、共有するシステムをもっているかないか、もっていても有効に組織内で機能しているかで環境の格差が生じており、高等教育の組織においても例外ではありません。一方では、対面でのコミュニケーションがいまさらながら必須であることも再認識されました。便利さの象徴であるペットボトルのポイ捨てや、SNSでのいろいろなトラブルなど“わきまえなければならない倫理”の問題も顕在化しています。本校でも情報倫理をはじめ教職員と学生が一体となって学校の生活環境の質の向上に努めていきます。2021年度入学式で「立志と思いやり」の話しのあと結びました。「学校は楽しい。」と一人残らず思えるように。

本校では、新型コロナウイルスによる感染拡大への対処は一貫しており、「校内において人から人へ感染させない」に尽きます。学生と教職員、保護者、食堂など関係各位のご尽力でここまで来ました。末尾に QR コードを示しました¹⁾、2020年3月時点の国際感染症センター長大曲貴夫先生のお言葉、「この病気の怖さというのは・・・(中略)・・・“罹っちゃいけない”・・・」。ずっと頭に刻んできました。皆様もぜひ改めて御覧ください。本校の立地する三重県も、8月5日に「BA.5対策強化宣言」が発出されています。一言加えたとしたら、「家庭内でもマスクをする」です。ソーシャルディスタンスという語感が、誤解を生んでいたかもしれません。エアロゾル感染をあらゆる局面で防ぐとしたり、一人ひとりが、科学的に思考し感染から自分と他人を守る努力をすることが大原則、また油断しやすいのも現実です。

COVID-19、新型コロナウイルス感染症の拡大は、物流、ロジスティクスに対する人々の関心を高めたと思っています。日本では、物流、特に海運に対する人々の関心が薄いと多くの方々が述べられてきました。海洋基本法にもとづき2018年5月に閣議決定された第3期海洋基本計画では、「海洋人材の確保・育成を取り巻く環境として、人口減少・少子高齢化やグローバル化等が大きな影響を与えている。」とし、「優秀な人材を確保する上で、海洋人材を目指す若者が、海洋に関連する高校、高専、大学等に進学することを通じ、魅力ある就職先を明確にしていくことが必要である。」としてきました。小中高の新たな学習指導要領実施に伴って海運の記載も社会科に加わっています。5年ごとに策定される基本計画、来る第4期では、脱炭素・DXに対応した海洋産業の競争力強化、ゼロエミッション船の導入、カーボンニュートラルポートの形成、また、自律運航船の実用化や港湾の電子化、慢性的なエネルギー問題を抱える我が国は、洋上風力や再生可能エネルギーの利用、資源調査に必要な海のドローン、水中ロボットの持続的な開発などに社会の関心が集まっているようです²⁾。

本校では、「人づくりを通じて海づくり：海事・海洋 DX、情報や機械のシステム産業と地域経済に貢献するマリリゾート・コアキャンパスの創成（令和3年8月校長より法人理事長に提出済）」に向けた取り組みを進めており、学校運営委員会をはじめ、練習船代船建造検討委員会、施設・環境整備委員会に鳥羽丸、キャンパスマスタープラン（CMP）、混住型国際寮（多文化交流生活寮、MELD）、棧橋・艇庫などのWGを設置、また、創基150周年・高専創立60周年記念事業委員会を設置して基金の開設とともに2025年に向けた作業部会が活動を開始しており、校祖近藤真琴先生の教育理念と教育目標の持続可能な具現化をめざしています。創基150年を礎に世代国境を越えた近未来メタバースキャンパス創造プロジェクト、校舎地区や艇庫の東海・東南海・南海地震、津波への対応含め、レジリエントなキャンパス鳥羽、近未来の青写真の整備も進めています。

事業経費導入の点では、国の令和3年度補正予算で「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」に採択、さらには令和4年度に至り、「GEAR5.0 未来技術の社会実装教育の高度化（採択分野：農林水産）「とる」から「つくる」へ農林水産業のDX推進プロジェクト」に採択、全国高専の中核拠点校として体制の構築が着々と進められています。教育面では、従来からの海事人材育成の取り組みに加えて、外航・内航船員・海技者として、また情報機械システム産業を担うにふさわしい英語の語学力の向上をめざして取り組みを進めます。

AIやIoTなどの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成、STEAM (Science, Technology, Engineering, Mathematics, Arts) 教育が求められています。本校は皇學館大學と包括連携するとともに、教員と学生を地元の小中学校に派遣して出前授業などを行っています。筆者も近隣の中学校の校長先生を訪問していますが、大変好評とご感想をいただいています。

令和4年度にはいって、対面とオンラインの効用を活用しながら、保護者懇談会、奨学後援会総会、高専体育大会、漕艇大会などが次々と学校行事が開催実施されています。令和3年の学生会、海学祭、鳥羽丸実行委員会製作の鳥羽丸PV この5月にリリースされました。改めて御覧ください³⁾。

皆様におかれては、どうか益々の本校へのご理解とご支援をお願い致します。

1) <https://www.youtube.com/watch?v=7q6TGMI4yJs>



(国立国際医療研究センター病院の大曲貴夫国際感染症センター長
令和2年3月25日)

2) <https://www.jsanet.or.jp/pressrelease/2022/pdf/t20220809-1.pdf>



(一般社団法人日本船主協会ホームページから 令和4年8月9日ほか)

3) <https://www.youtube.com/watch?v=gMkY3H2qEMs>



(鳥羽商船高等専門学校 学生会 鳥羽丸 PV ~鳥羽丸のすべて~ 2021年12月5日に開催された第56回海学祭にて配信)



練習船鳥羽丸から本校校舎・艇庫地区をのぞむ（令和4年8月10日鳥羽丸から撮影）



松下 「蘇民の森」の蓮の華



※人事

令和4年4月1日より

副校長と校長補佐を以下としました。

副校長（総務、教務）	伊藤教授
副校長（学生、厚生補導）	坂牧教授
副校長（国際、寮務）	橋爪教授
校長補佐（研究、産学・地域連携）	江崎教授
校長補佐（サイバーセキュリティ）	白石教授